



クイーンオブクイーン

博物館に
行ってみよう!

もっと知りたい! 千葉のおもしろ 博物館

第6回

芝山町立芝山古墳・はにわ博物館 (芝山町)



インタビュー
“中の人”に
聞いてみました

埴輪は多くの人の想像や ロマンを掻き立てる存在

芝山町と古墳・埴輪との関わりは、1956年の殿塚古墳・姫塚古墳の発掘調査までさかのぼります。この発掘は、博物館に隣接する芝山仁王尊・観音教寺の当時の住職が発起し、早稲田大学や地元住民も参加する形で行われた地域発掘でした。ここで発掘された品々はお寺が独自に保存施設を作り、長らく展示してきました。その後、1988年に町の博物館(芝山古墳・はにわ博物館)が完成。2021年1月にお寺の保存施設閉鎖に伴い、埴輪が寄託されることとなり、現在の博物館の形となりました。

殿塚古墳・姫塚古墳は、その規模の大きさや出土した埴輪の質の高さからも、この地域において最高位の支配者のお墓と言われ、政治・文化の中心地であったことが示唆されます。ただ、今から約1500年前、古墳時代に作られていた埴輪にはその役割を説明するようなはっきりとした資料が残されていません。そのため、葬送儀礼の様子や首長権の継承儀礼の場面を表現しているという説、芸能(祭り事)によって首長に奉仕する様子や首長の生前の業績、死後の世界での生活の様子を示している説など、いろいろな説が存在しています。

また、埴輪の製作には土師氏と呼ばれる古墳造営の専門集団が関わっていたと言われており、その集団や地域によっても表情やポーズ、服装も実にさまざま。多くの人の想像やロマンを掻き立てる存在となっています。昨年、東京国立博物館で行われた埴輪の特別展が大人気となった影響もあり、さらに多くの方が当館に訪れていただけるようになりました。みなさんもぜひ、この興味深い地域の歴史と出土品をご覧に当館にお越しいただければ幸いです。



芝山町立芝山古墳・はにわ博物館
学芸員 伝田 郁夫さん



▲古墳や埴輪とはどのようなものなのか、作られ方や始まりなど丁寧に説明がされています。館内は広く、見やすい展示になっています。

芝山町立芝山古墳・はにわ博物館とは？

芝山町立芝山古墳・はにわ博物館が開館したのは1988年。「房総の古墳とはにわ」をテーマに、芝山町と周辺地域の埴輪が一堂に集められ、展示されています。古墳時代の衣食住の様子も紹介し、古代衣装や復元した竪穴住居もあります。

マンガを活用した豊富な解説などもあり、大人からお子さんまで



楽しみながら「古墳と埴輪」について知ることができ、文字がほとんど残されていない古代の地域社会の生活が容易に想像できます。



殿塚古墳・姫塚古墳から出土した埴輪群

第1展示室にある広々としたガラスケースには、人物埴輪を中心とした個性あふれる殿塚古墳・姫塚古墳出土埴輪が展示されており、2024年には国重要文化財に指定されています。

埴輪の背景を知れば もっと面白い!

古墳時代、時期や地域にもよりますが、埴輪の製作には専門性の高い職能集団が関わっていたと考えられています。また、地域ごとに埴輪の大きさや形状、表現方法に特徴がみられます。そして、埴輪自体が社会的な階層を示す役割も担っていたとも考えられています。人物埴輪には上半身だけを表現したものもありますが、全身像の人物埴輪は、より身分の高いとされる男性が多く表現されています。

殿塚古墳・姫塚古墳の埴輪は、あごひげや髪型、帽子などの表現が特徴的で、茨城県などからも類似した埴輪が出土しています。つまり、古墳時代にはさまざまな地域間の交流や政治・文化的なつながりがあった可能性を示しています。

そんな背景を知ったうえで、展示されている人物や動物、建物の埴輪を眺めると、その姿、表情もきっと全く違ったものに感じられ、古墳時代の様子やそこで暮らす人々の生活まで思い浮かぶようです。



▲「ひざまつく男」



▲マンガを活用した解説。博物館内にはこのようなマンガで説明もされていて、子供でも分かりやすく、楽しみながら知ることができます。

第2展示室

古墳時代の生活と技術を紹介するコーナーです。毎年行われている「芝山はにわ祭」で使用される古代衣装、古墳から出土した鉄剣や勾玉などの副葬品のほか、復元された竪穴住居、集落遺跡から出土した土器などが展示されています。



▲毎年開催されている「芝山はにわ祭」の写真パネル。古墳時代の服装を身にまき、顔にも当時の化粧を施します。



▲復元された竪穴住居。当時の一般庶民の生活の様子がリアルに伝わってきます。

●問い合わせ／芝山町立芝山古墳・はにわ博物館
山武郡芝山町芝山438-1 TEL.0479-77-1828

第1展示室

古墳時代後期(6世紀)を中心とした埴輪を見ることのできる、博物館のメインとなる展示室です。特に国重要文化財に指定された殿塚古墳・姫塚古墳から出土した人物を中心とする埴輪群は圧巻。その大きさ、表情の豊かさ、ユニークな服装など見どころがいっぱいです。



▲展示室入口すぐに展示されている発掘当初の埴輪のレプリカ。壺の下部や器台の側面に穴が開けられ、供え物をする本来の用途から古墳の表面を飾るものへと変化していく様子がうかがえます。



▲「胡坐する男」と名付けられた埴輪です。不思議な存在感があります。



▲馬形埴輪と馬子。動物埴輪の中では馬形埴輪が多く出土しています。



▲埴輪の中には、人物、動物、建物のほか、武器・武具や被葬者の権威を示す道具などの埴輪も存在しています。

第3展示室

芝山町を中心とした遺跡から発掘された石器・縄文土器・^{ぼくしよ}墨書土器などが考古学の調査・整理・報告などの研究の様子とともに展示されています。床面には芝山町の古墳分布図が描かれていて、鳥瞰図として楽しむことができます。



▲芝山町の出土品が並べられたコーナー。ちょっと懐かしさも感じる近代のさまざまな道具も展示されています。



▲町指定有形文化財の芝山象嵌(ぞうがん)の扁額(へんがく)ほか。貝・珊瑚・鼈甲(べっこう)・翡翠・象牙などを用いて花鳥人物が描かれています。

すごい!このホンモノを見逃すな!

通称「背の高い男」



第1展示室の一番奥、国重要文化財に指定された姫塚古墳から出土した人物を中心とする埴輪群の中でもひとときわ目立つ、大きな(高さ160cmほど)あごひげの男性の埴輪。あごひげだけでなく美豆良(男子の髪型の一つ。髪をまん中から左右二つに分けて束ねる)を結び、山高帽のような帽子を被る姿がこの地域における埴輪の特徴をよく示していると言われています。

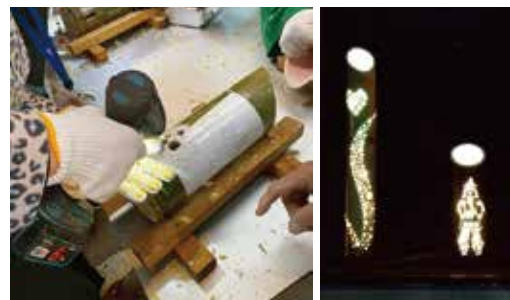
それにしても、大きくウェーブのかかった髪型、高い鼻、涼し気な目元、つばが広い帽子、そして、腰には刀。その姿は外国人の姿を彷彿させるような風貌です。実際、古墳時代には中国や朝鮮半島から多くの渡来人がやって来たことが分かっています。殿塚古墳・姫塚古墳の埴輪に表現された人物が渡来人であるかはともかく、埴輪の大きさや種類は、被葬者の社会的な地位を示すと考えられています。また、全身像の人物埴輪も、身分の高い男性が多い傾向があります。

そして髪型や帽子といい、この時代の男性がかなりオシャレであったのは確かです。

このユニークなあごひげの埴輪、実は芝山町を通る県道62号成田松尾線の新道でも見ることができます。この通りは通称、「芝山はにわ道」と呼ばれていて、道路沿いの所々に武人や馬などの埴輪のレプリカが設置されています。地域では有名な通りなんだとか。博物館へ向かう道中、探してみるのも楽しみですね。

イベントに行ってみよう!

これまで、こんなイベントもやっていました



博物館を会場に開催

【ヒストリーパークしばやま体験ツアー】

「ヒストリーパークしばやま活用推進協議会」が主催。協議会のメンバーでもある博物館では竹灯籠づくりや館内の展示解説が行われ、多くの方々に参加されました。



年に1度、古代人が来館?

【芝山はにわ祭】

毎年11月の第二日曜日に、町をあげて開催される「芝山はにわ祭」。当日は芝山古墳・はにわ博物館も無料開放。1年で最も多くの方が来館されます。

2024年度の年間入館者は1万8000人を超えました。

「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」今月の誌上クイズ

※答えは、京葉銀行のホームページにある、「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」の第6回をご覧ください。



今回誌面でご紹介した、国の重要文化財に指定された埴輪群が発掘された場所はどこでしょうか。次の3つの中から正解を1つ選んでください。

- ① 殿塚古墳・姫塚古墳
- ② 兄塚古墳・姉塚古墳
- ③ 男塚古墳・女塚古墳

取材協力・撮影協力・写真提供／芝山町立芝山古墳・はにわ博物館

プラスαで、未来とともに。

京葉銀行

ホームページでもご覧いただけます。

京葉銀行 情報誌

検索

LINE、Xからも「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」を配信しています。

LINE 公式アカウント

@keiyobk_official



X 公式アカウント

@keiyobkofficial



正解は→① 殿塚古墳・姫塚古墳

2025.6
(次回発行予定/
2025年7月18日)